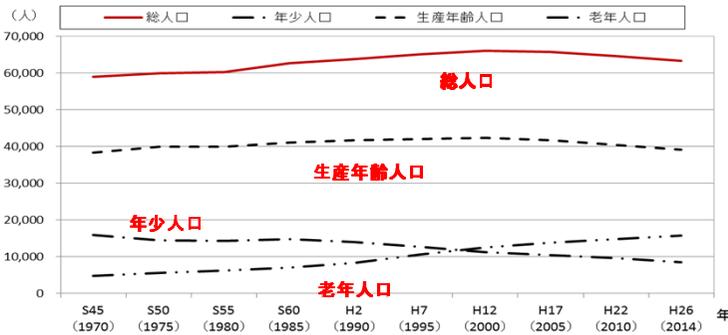


白河市人口ビジョン(概要版)

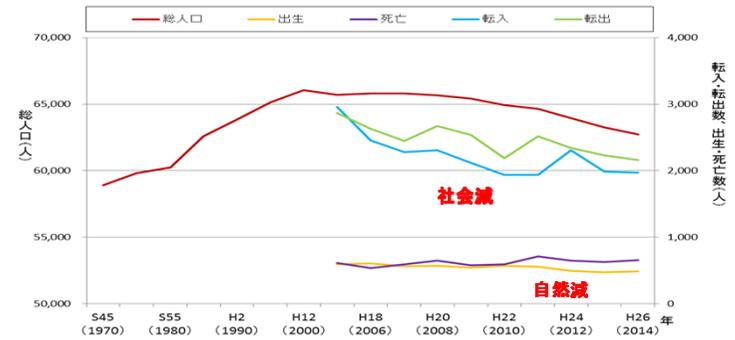
人口の現状

年齢3区分別人口構成の推移



- 総人口は、平成12(2000)年の66,048人(国勢調査)をピークに、減少傾向にある。
- 生産年齢人口(15~64歳)については、平成12(2000)年以降ゆるやかに減少し、年少人口(0~14歳)については昭和55(1980)年以降減少が続く一方、老年人口(65歳以上)については一貫して増加している。

総人口と自然増減・社会増減の推移



- 自然動態は、老年人口の増加による死亡数の増加と、若年世代人口の減少や合計特殊出生率[※]の低下による出生数の減少により、死亡数が出生数を上回る自然減となっている。
- ※平成20(2008)年~24(2012)年の本市の合計特殊出生率は1.55
- 社会動態は、転出数が転入数を上回り社会減となっている。他の世代に比べて、15~24歳の若者世代で転出数が転入数を大きく上回っており、若者の人口流出が社会減の大きな要因になっていると考えられる。

人口の将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計に準拠して算出した場合、本市の2040年の推計人口は52,000人程度となり、2060年には40,000人程度となることが予測される。
- 若者の人口流出の抑制、合計特殊出生率の向上等により、人口減少を抑制し、将来にわたり持続可能な地域社会を維持していくことが必要である。



若者の就労・結婚・出産・子育ての希望の実現、他地域への人口流出の抑制、首都圏在住者の転入の促進等の各種施策に取り組むことで、2040年に57,000人程度、2060年に52,000人程度[※]を維持する。

※算定根拠・・・現在の社会増減△186人を、2020年に人口移動をゼロ(転入・転出が均衡)に上昇させ、それ以降維持する。また、2030年に合計特殊出生率を2.08(市民の希望出生率)、2060年に2.23(福島県の希望出生率2.16に、市と県との合計特殊出生率の差である0.07を加算した数値)に上昇させる。

将来人口の見通し

